

藤原先生の報告に対するコメント

(内容)

1. 基本理念とその実現のための取組みとは
2. 基本理念と3つの仕掛け(環境, プログラム, 人)の関係
ープログラムへの仕掛けの意味とはー
3. 現状分析から見えてきた課題とは
4. 今後に向けて
ー通所サービスに期待される役割の観点からー

基本理念とその実現のための取組みとは

基本理念	基本理念を実現するための取組み
自己選択・ 自己決定方式	<ul style="list-style-type: none">・多種多様なプログラムの開発 (ICFの考え方に準拠)・自己選択／自己決定を促す仕掛け (環境: 我が家に近い環境作り、プログラムボード) (人: 意思を引き出す／促すようなスタッフの関わり)・スタッフに対する意識改革 (安全最優先、リスク回避 (管理) 意識からの脱却)・スタッフの適切な関与の促しとマネジメント能力の向上 (スター制度の導入)
バリアあり	<ul style="list-style-type: none">・スタッフに対する基本理念の徹底 (地域における生活の自立度を高めるための支援)・リスク管理 (転倒防止等) の強化のための環境作り (すぐ近くに、寄りかかったりできるものを配置)
自立支援 (引き算の介護)	<ul style="list-style-type: none">・スタッフ及び利用者に対する意識改革・スタッフのアセスメント能力のレベルアップ (どこまで出来るのか、支援が必要なのはどこか)・自立度向上を促すような環境への仕掛け

基本理念と3つの仕掛けの関係

ープログラムへの仕掛けの意味とはー

「プログラムへの仕掛け」の意味①(ICFとMILK理論)

活動と参加の大分類

1. 学習と知識の応用

- ・意思決定・思考
- ・注意して見聞きする

2. 一般的な課題と要求

- ・日課の遂行
- ・複数課題の遂行

3. コミュニケーション

- ・会話・言葉の理解
- ・メッセージの表出

4. 運動・移動

- ・姿勢保持・歩行
- ・交通機関の利用

5. セルフケア

- ・排泄・更衣
- ・整容・食べること

6. 家庭生活

- ・家事・調理
- ・必需品の入手

7. 対人関係

- ・家族関係・対人関係
- ・相手に応じた関係

8. 主要な生活領域

- ・教育・仕事と雇用
- ・経済生活

9. 社会生活

- ・コミュニティライフ
- ・レクリエーションとレジャー

4つの要素(MILK)に分類

Movement(動き)

指、手足、全身
感覚を使って
からだを動かす

Intention(意気)

物事を、見聞きし、
わかり、考えて
決める

Life(生氣)

体温・血圧・呼吸・食
べる・排泄・
睡眠・体調維持

Keeping(根気)

注意集中・忍耐・継
続・対人関係の継
続

「プログラムへの仕掛け」の意味②(例:パン作り)

プログラムのねらい

- ①食欲をそそり、自分から動く
- ②文字をみながら、指示の内容を理解できる
- ③計測を正確に行える
- ④手順を間違えない
- ⑤発酵や焼き上がりまでの時間を有効に活用する
- ⑥できあがったパンを食べたり、持ち帰ったり、誰かにあげたりして感動する
- ⑦全身の力を使って、身体の運動力を高める
- ⑧衛生や清潔面に気を配る

Movement(動き)

関節の可動域の機能:2点
筋力の機能:2点
不随意運動反応機能:2点
視覚機能:2点
聴覚機能:0点
前庭機能:1点
その他感覚機能:2点
14点満点中11点 (=79%)

Intention(意気)

精神運動機能:2点
情動機能:2点
計算機能:2点
思考機能:1点
高次認知機能:1点
見当識機能:1点 など
11項目22点満点中
11点 (=50%)

Life(生氣)

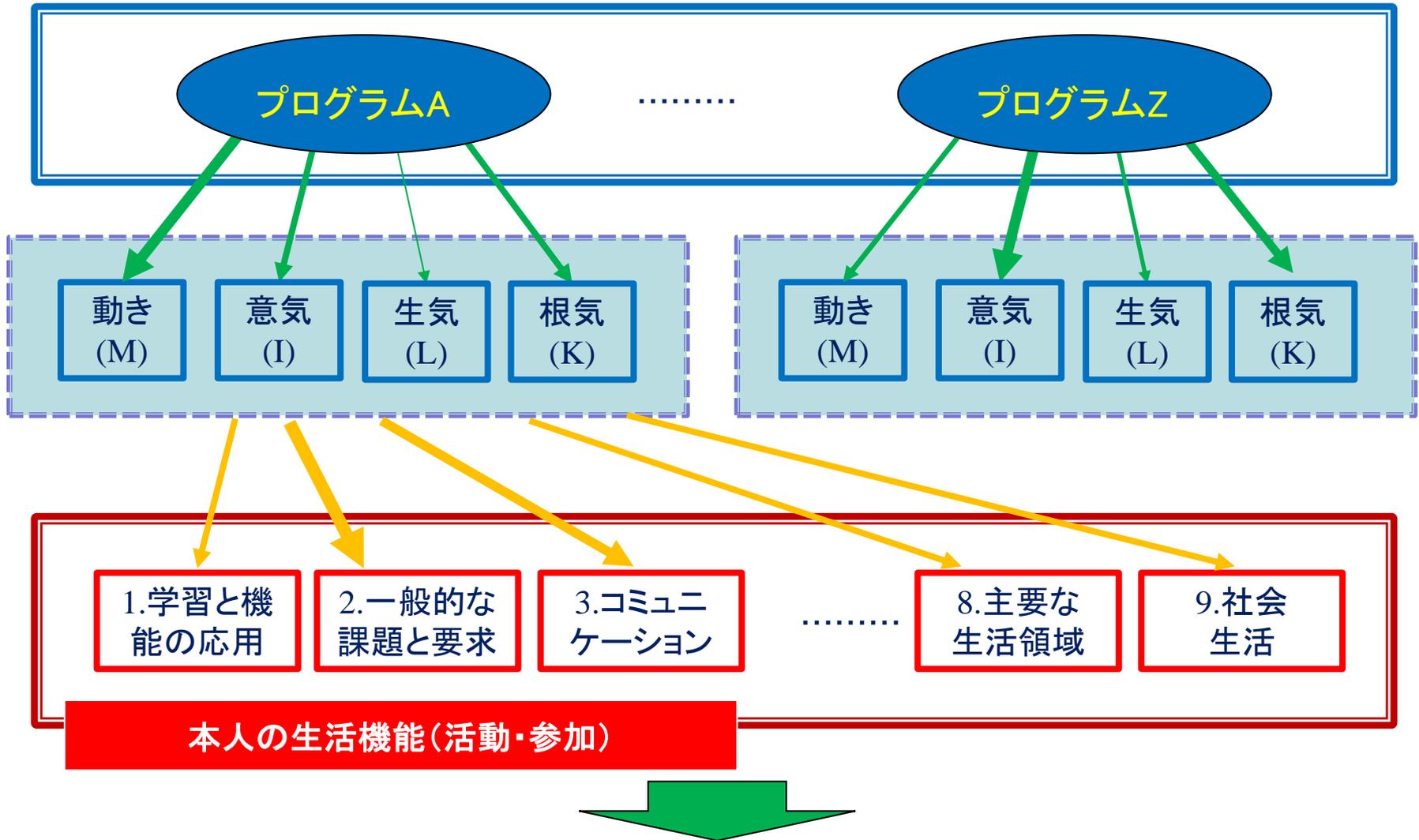
活力と欲動の機能:2点
痛みの感覚:1点
心機能:1点
摂食機能:1点
呼吸機能:1点
血圧の機能:1点 など
13項目26点満点中
9点 (=31%)

Keeping(根気)

全身持久力:2点
易疲労性:2点
注意機能:1点
気質と人格機能:1点
4項目8点満点中
6点 (=75%)

各プログラムの意味、目的をスタッフが理解し、行動することが求められる

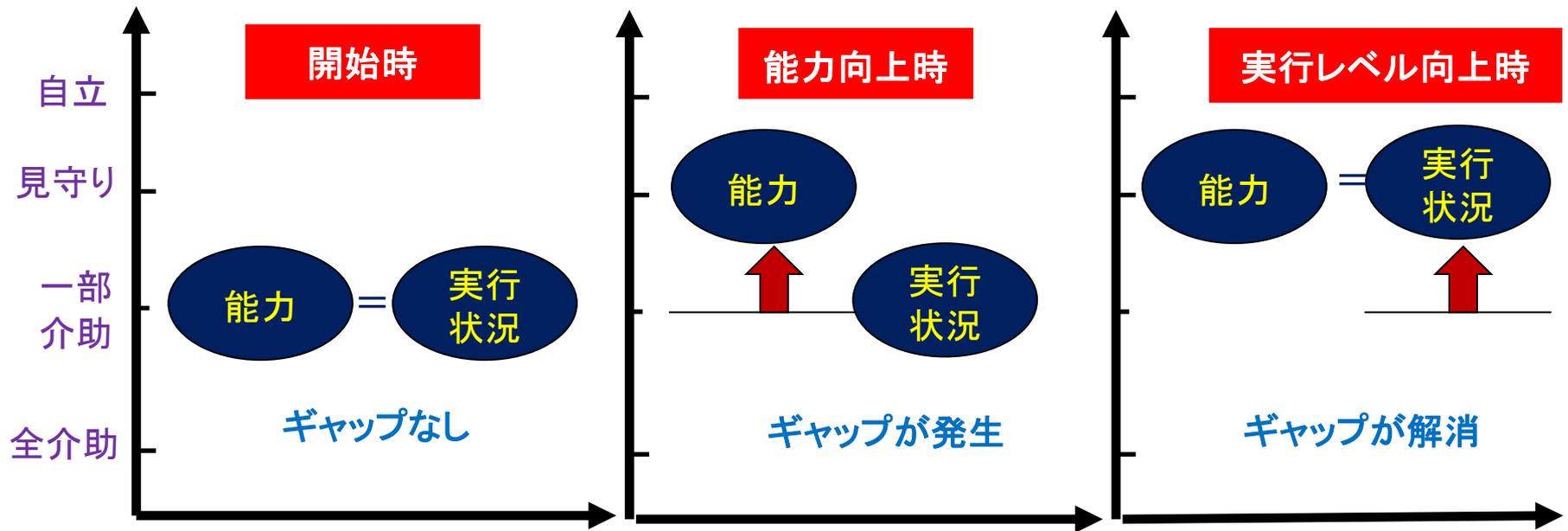
生活機能向上とプログラムの関係性(概念図)



多様なプログラムの活用が、中重度者の生活機能全般に影響を及ぼし、その結果として、要介護度の維持・改善へとつながっているのではないか

現状分析から見えてきた 課題とは

通所での能力と自宅での実行状況に差が生じた理由



能力が向上してもすぐに実行状況があがる訳ではない。
そのため、実行レベルが上がるまでの間、両者のギャップが生じる場合がある。

ただし、両者のギャップ調査により、

- ①自宅での実行状況把握が不十分のため、ADL等のギャップの認識ができていなかった、
 - ②そのギャップが、解決すべき課題なのかどうかの吟味ができていなかった
- ことは、サービス提供上の大きな課題であることが明らかとなった。

今後に向けて

—通所サービスに期待される役割の観点から—

今後に向けて

【通所介護サービスのあり方：地域包括ケア研究会報告書(H25.3)を一部改変】

- ・①レスパイト、②機能訓練、③認知症ケア、④ナーシング機能等、機能面から整理し、**専門性の高い機能をより評価する仕組みが必要**
- ・**メニューやアクティビティの多様化、認知症の人の介護者に対するサポートへの取組みも必要** など



夢のみずうみ村方式の強みと弱み

- 目的や効果が異なる多様なプログラムを有し、かつ、生活機能向上を果たしている(強み)。
 - ・多様な「生活上の課題」を抱える高齢者に対し、効果的なケア・支援が提供できる。
 - ・生活機能全般を高める事ができる。
 - ・プログラムの意図が理解できない方に対しても、生活機能を高めることができる。
- スタッフに高いレベルが要求される(強みでもあり、弱みでもある)
 - ・利用者中心主義であるため、組織にもスタッフにも常に「変化」が求められる。(ケアの質向上の為には必要だが、組織として疲弊しかねない。制度管理側との軋轢も生じやすい)

今後の課題

- ①リハマネジメントの機能強化(宅配ビリテーション、訪問リハやケア職との連携強化)
- ②サービス担当者会議の機能強化支援(アセスメント(現状と予後の評価)、リスク認識&管理など)
- ③認知症の人と家族に対する効果的なサービス・支援の開発とその効果評価 など